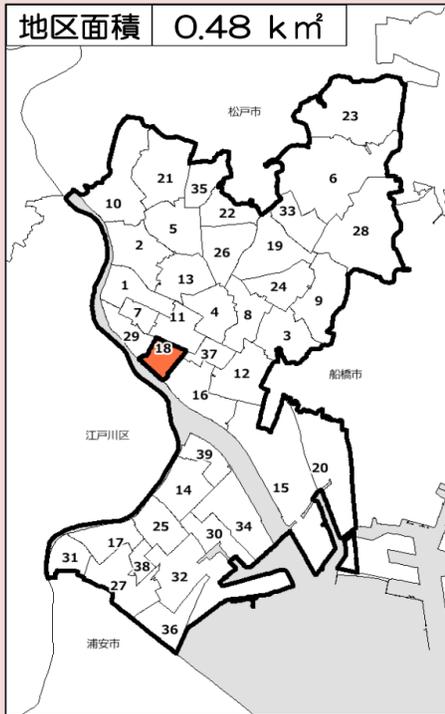


# 18 鶴指小学校区

## (1) 位置



## (2) 地区概況

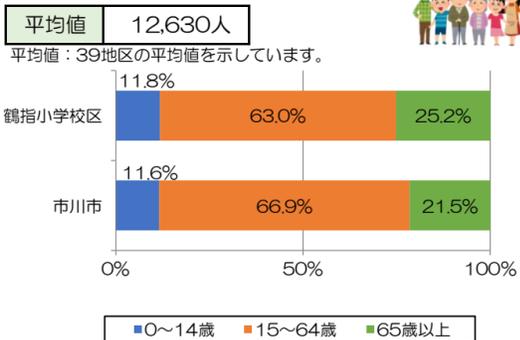
- ◆位置  
鶴指小学校区は市の中央よりやや西部に位置し、地区の南西側は江戸川に面しています。
- ◆地形・土地利用  
地形は、主に後背湿地で構成され、旧水田の埋め立て地区となっています。地区の北側は第一種中高層住居専用地域等の住宅地となっており、中高層マンション等が多く建ち並んでいます。
- ◆都市基盤  
地区の東側には外環道路、地区の東西にかけて県道283号線（産業道路）が通っています。また、地区内には、JR本八幡駅行きの京成トランジットバスが通っています。

## (3) 人口・建物概況

### ◆人口

年齢別割合			
	鶴指小学校区	市川市	割合※
人口総数	9,063人	492,564人	1.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

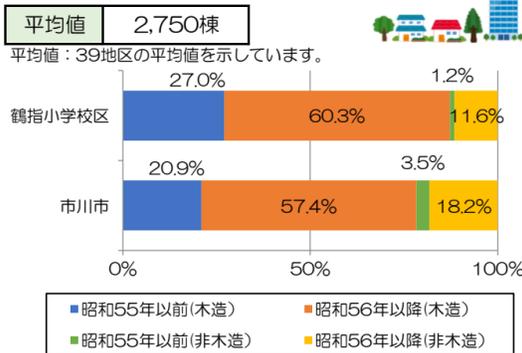


地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。市全体と比較すると65歳以上の割合がやや高く、高齢の世代がやや多い地区となっています。

### ◆建物

構造別割合			
	鶴指小学校区	市川市	割合※
建物総数	2,773棟	107,267棟	2.6%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

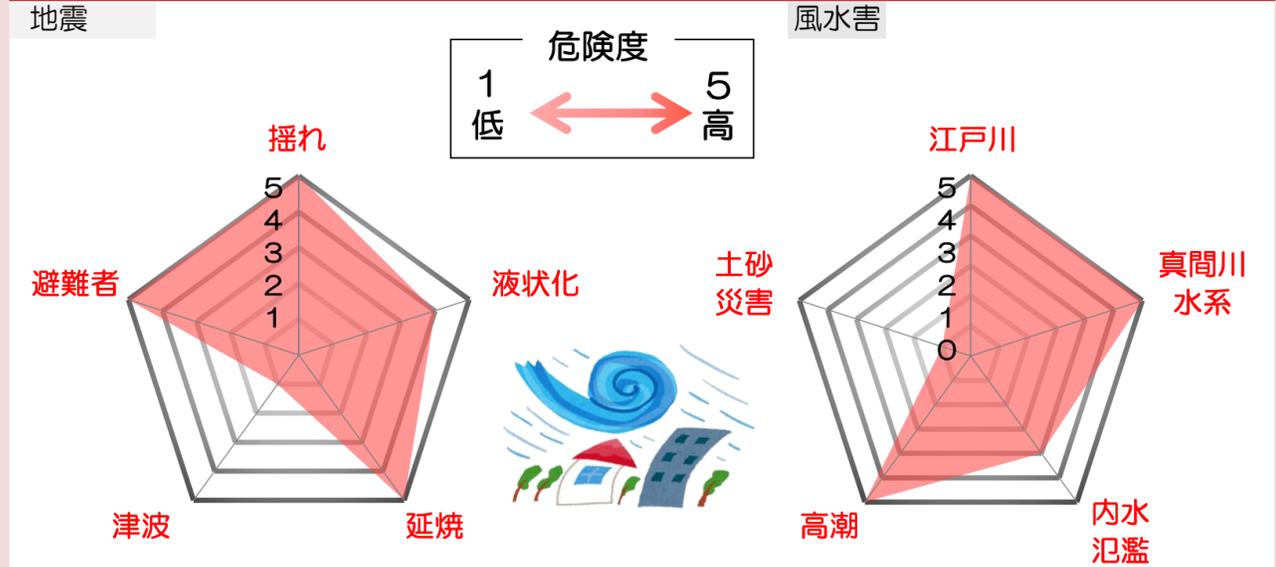


地区の建物は平均と同程度です。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が低いです。また、木造建物が多い地区となっています。

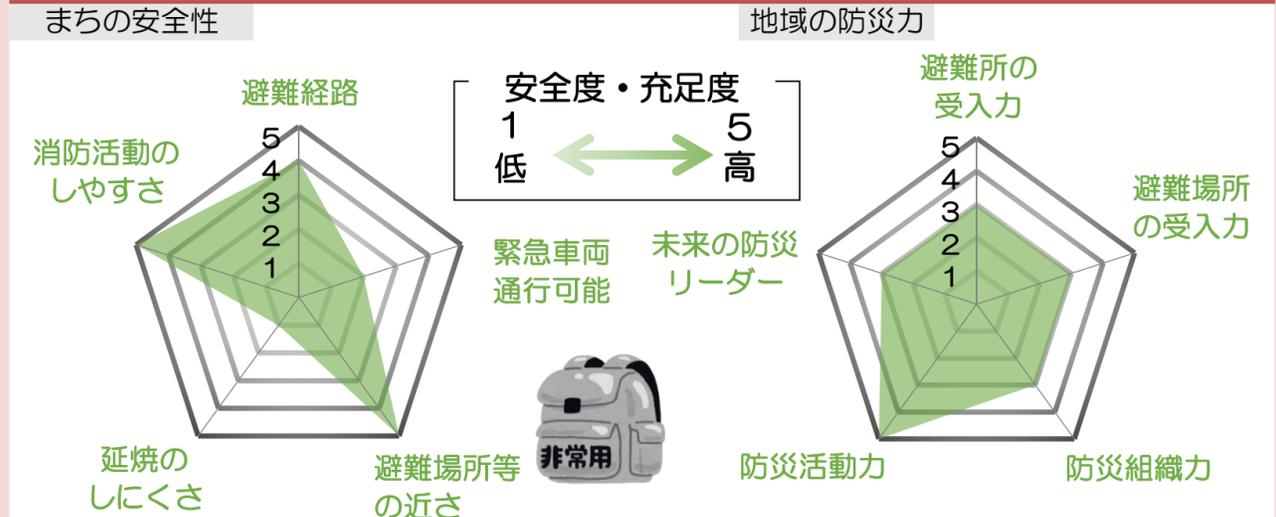
## (4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

### ◆災害に対する弱み（マイナス面）



### ◆災害に対する強み（プラス面）



### ◆評価

鶴指小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、延焼による危険性が高く、避難者が多く発生する傾向にあります。風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、真間川水系の氾濫、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路、避難場所等の近さ、消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能道路の充足度、延焼のしにくさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災活動力は高い傾向にあります。

## (5) 防災関連施設

### ◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
鶴指小学校	-		
第八中学校	-		

### ◆避難場所

名称
鶴指小学校
第八中学校
江戸川河川敷緑地

### ◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	大洲保育園		医療救護所	なし
	大和田保育園		関連施設	なし



## (6) 被害想定結果(地震・風水害)

### ◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	鶴指小学校区	市川市全体	
建物被害	全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	8.3%	4.8%
	半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	16.2%	11.8%
	焼失棟数の割合	11.9%	10.2%
	浸水棟数(津波)の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	0.7%	0.4%
	避難者の割合	28.0%	20.0%



### ◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	鶴指小学校区	市川市全体	
建物被害	浸水棟数(江戸川)の割合	100.0%	52.9%
	浸水棟数(真間川)の割合	100.0%	47.7%
	浸水棟数(内水)の割合	56.0%	57.9%
	浸水棟数(高潮)の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が低く、木造建物が多く、地震の揺れが特に強いこともあり、建物被害は多い傾向にあります。また、人的被害についても、特に負傷者、避難者が市全体より多くなっています。

一方で、風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による影響が大きく、真間川水系の氾濫、高潮の浸水による影響も受け、市全体と比較して江戸川、真間川水系、高潮の浸水棟数は多くなっています。

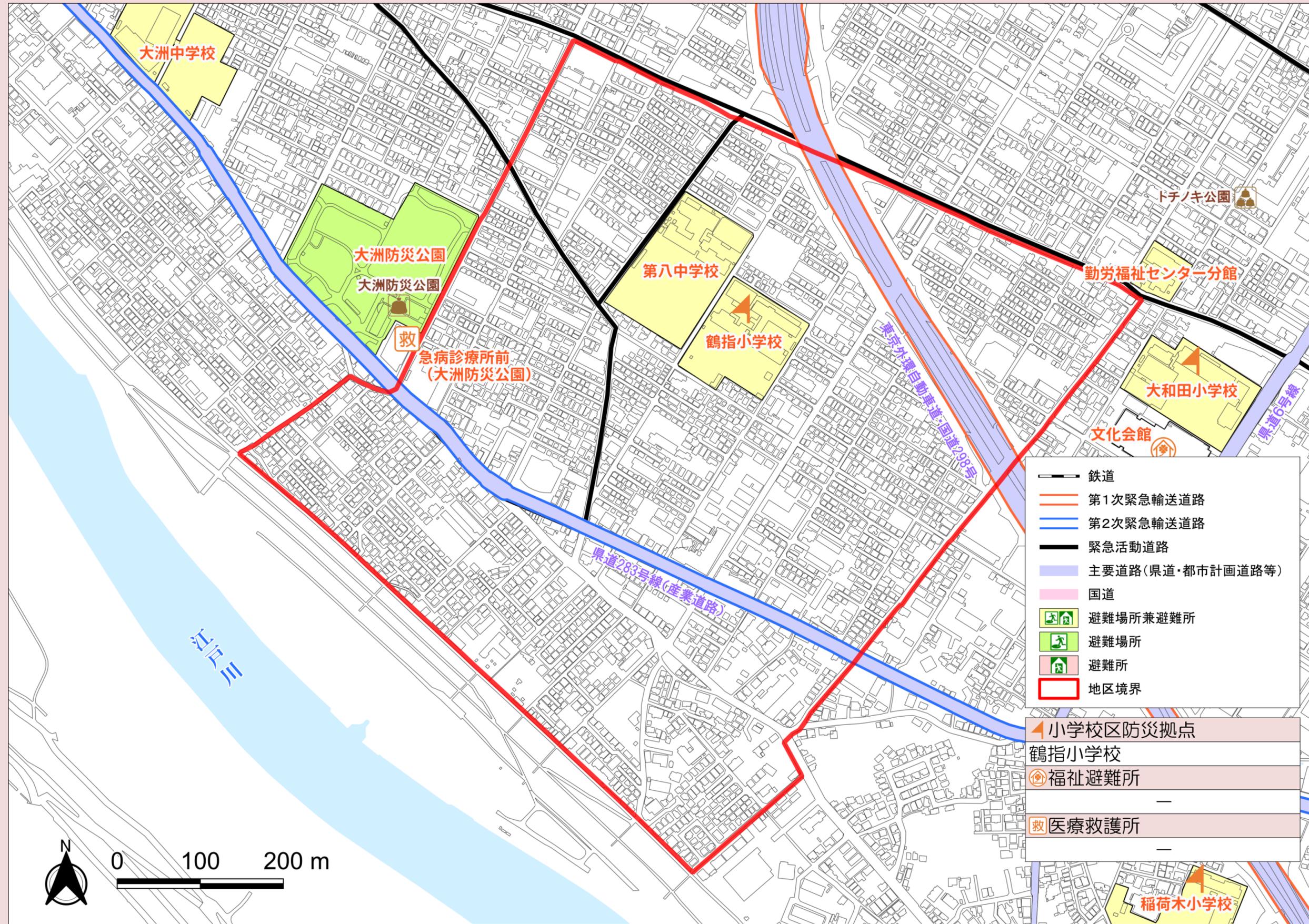
## (7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、延焼による危険性が非常に高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策等が重要です。
風水害	南西側に江戸川が面していることから、河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、延焼遮断帯となる空地や耐火建築物の占める割合が低いことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区では、地域の防災力が高いものの概ね平均的な傾向を示しているため、さらに防災組織結成の促進や既存組織での訓練などの取り組み、防災活動に取り組んでいくことが重要です。

## (8) 防災対策の方向性

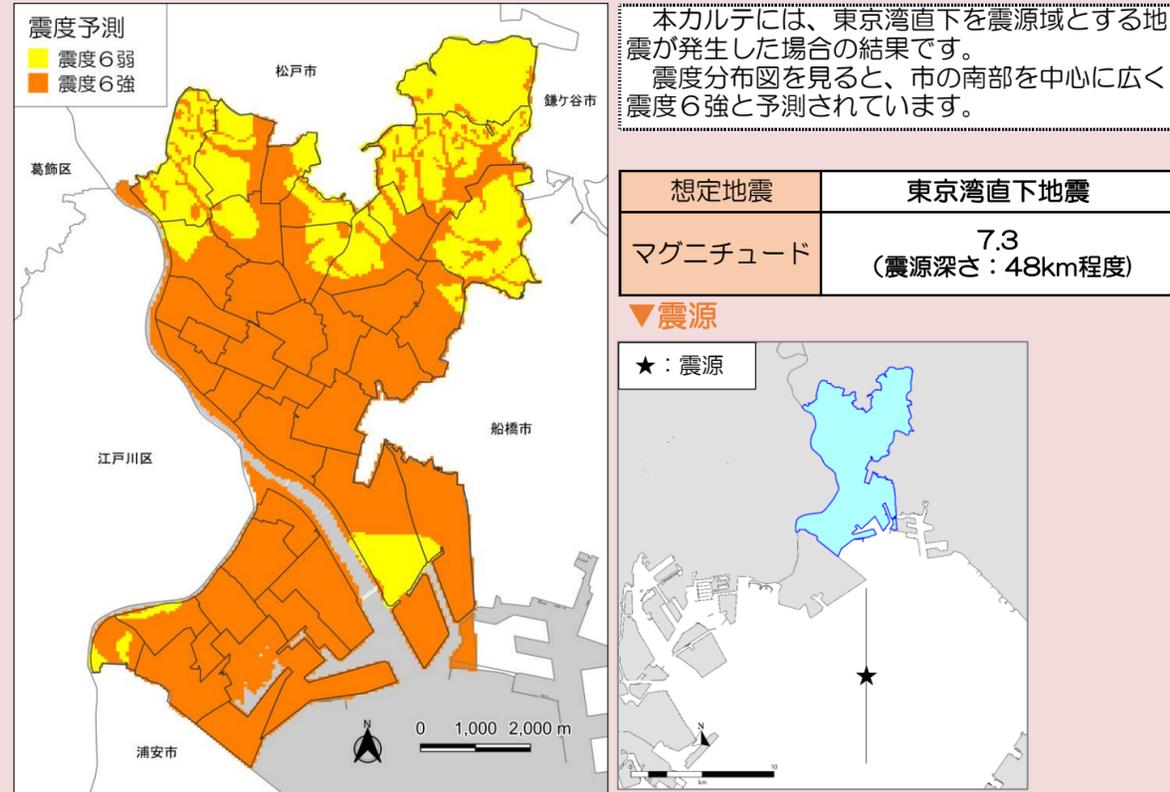
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止をしておくことが効果的です。 災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災活動力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 地震が発生すると避難者が多く発生することから、避難所は近隣を含め充足度が低い場合、在宅避難の準備や指定避難所以外の避難先の確保について、あらかじめ地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅(家庭)の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるように、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

# (9) 防災マップ

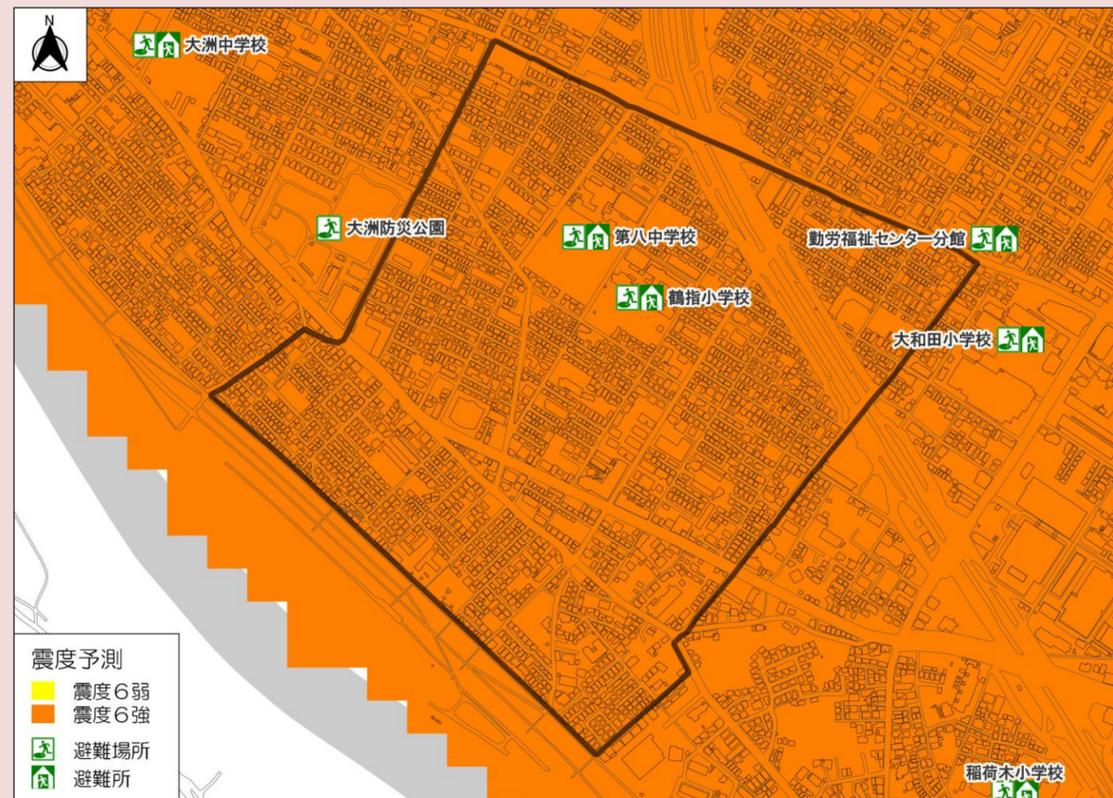


# (10) 基礎資料

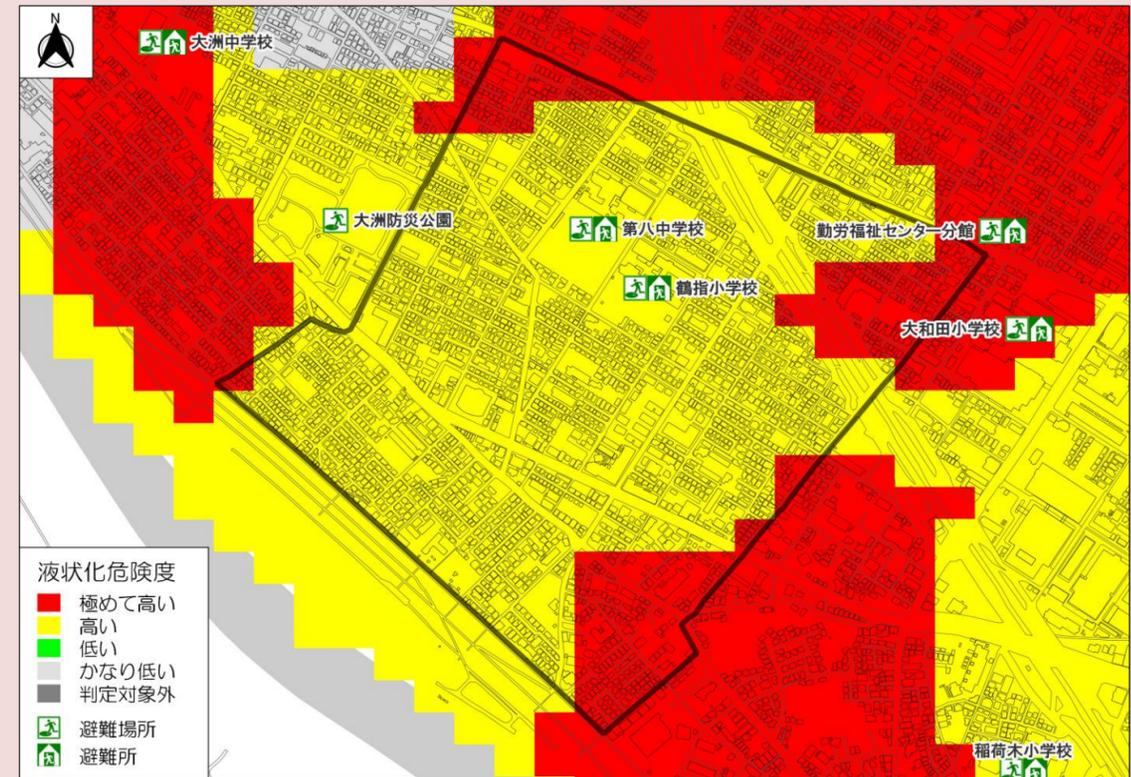
## ①市全域の震度分布図



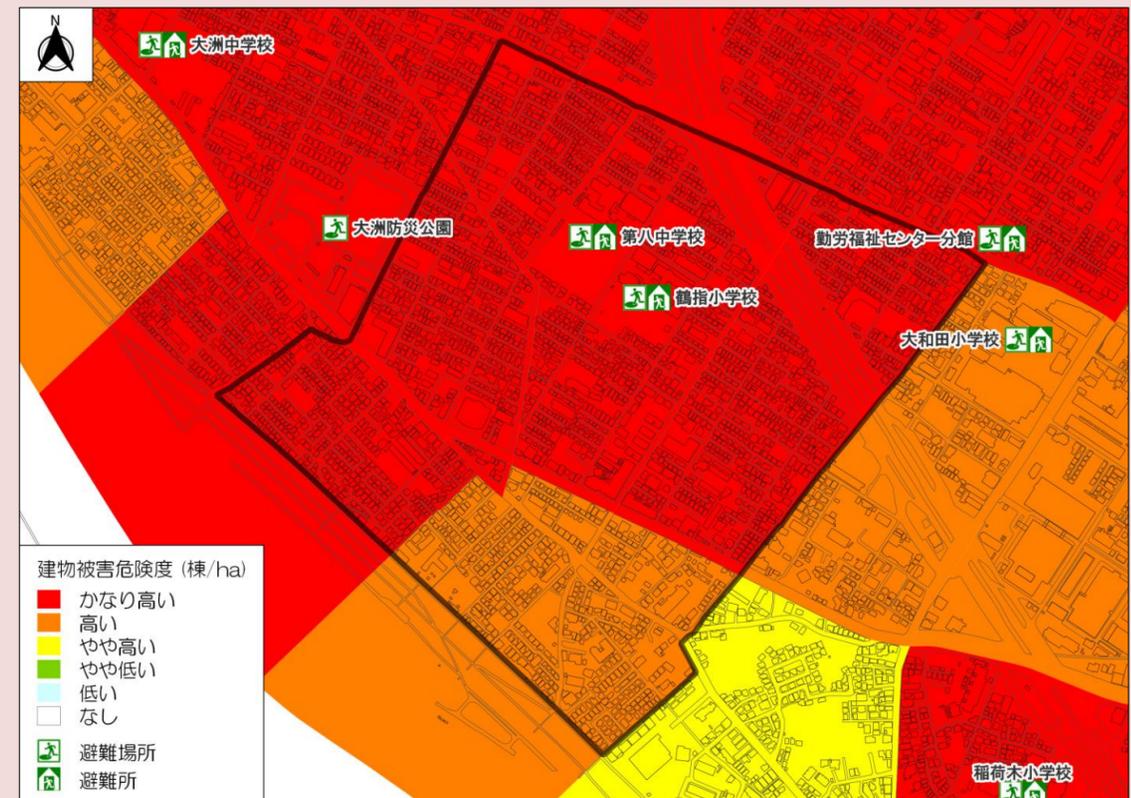
## ②震度分布図



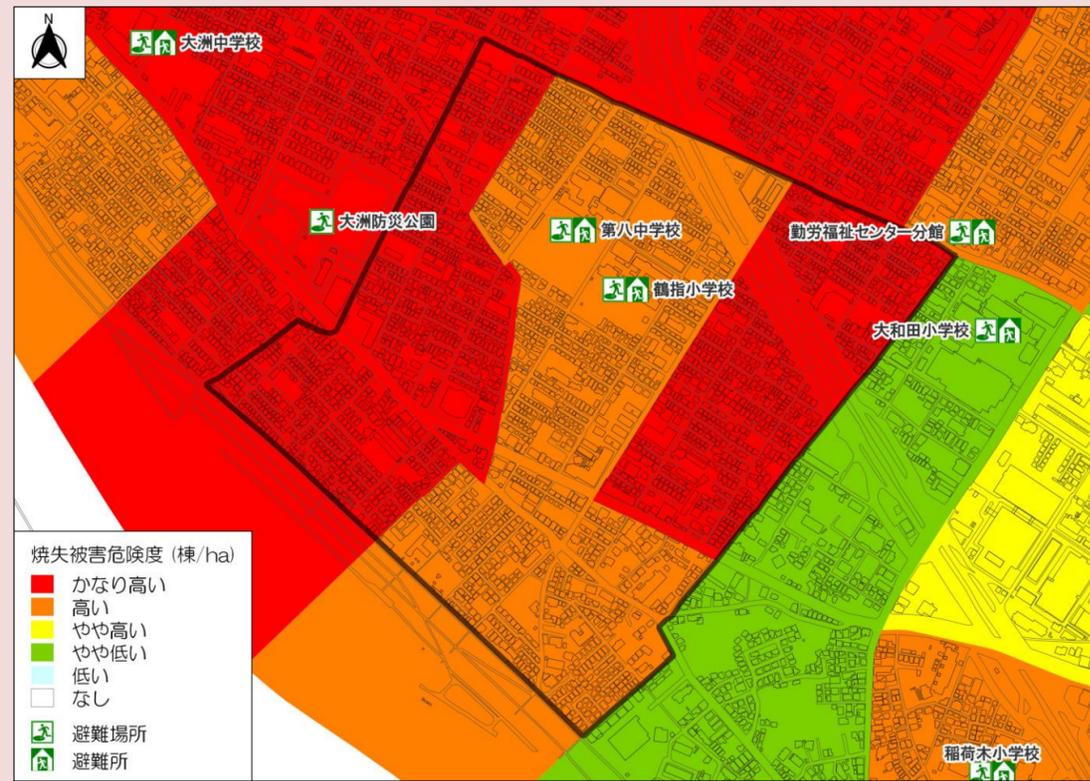
## ③液状化危険度



## ④建物被害（揺れ・液状化による被害）



### ⑤建物被害（延焼による被害）



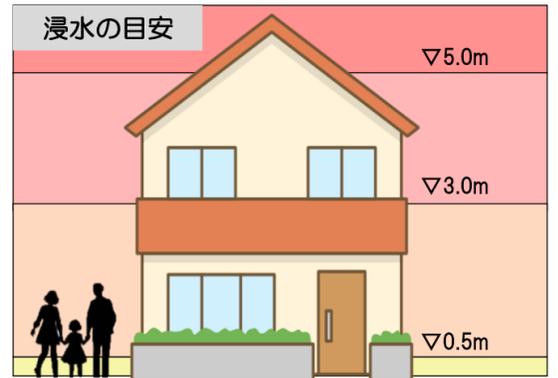
### ⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

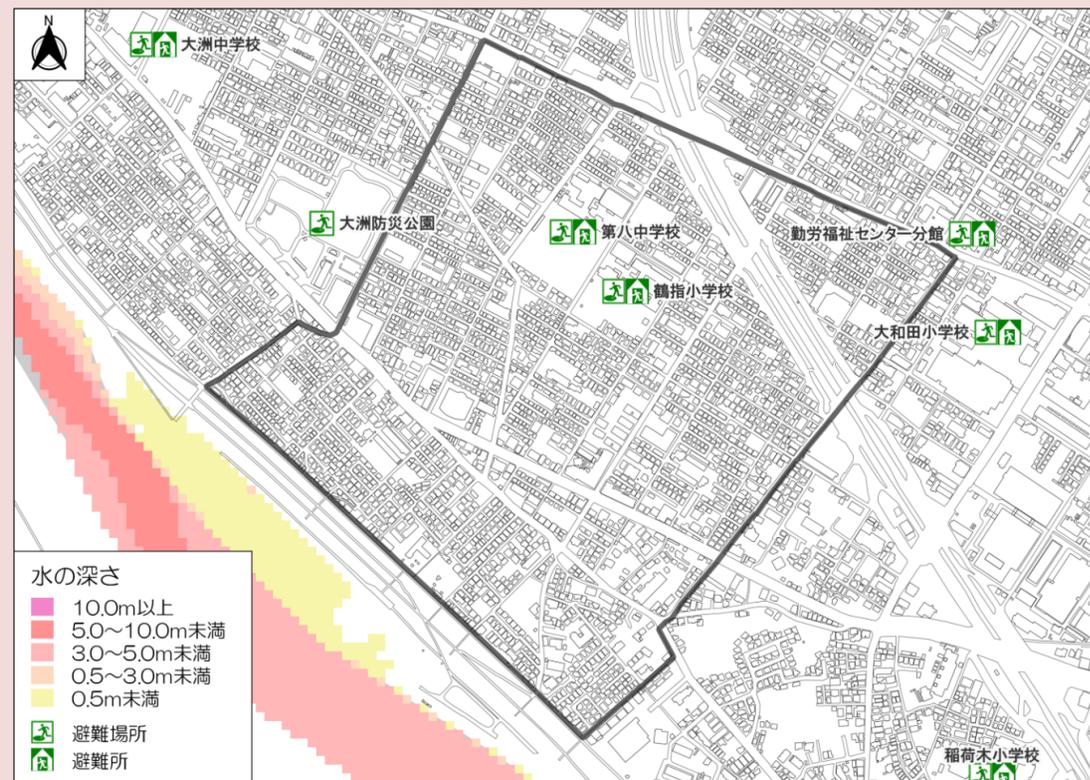
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

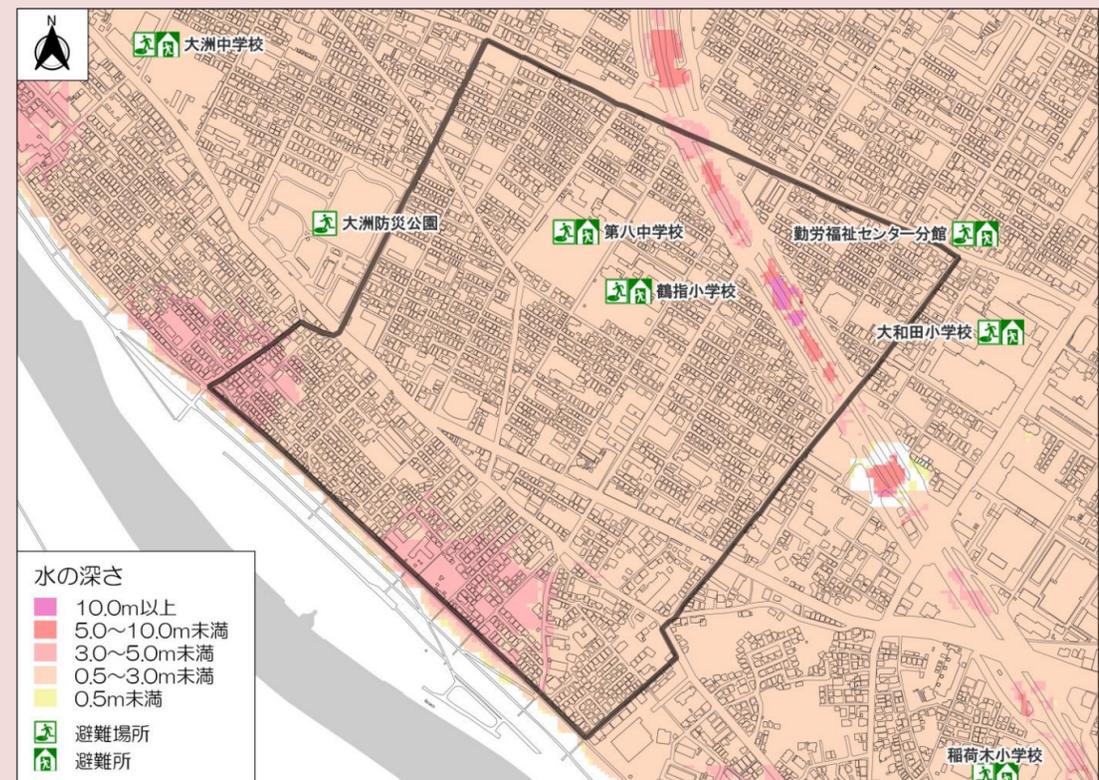
### ⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

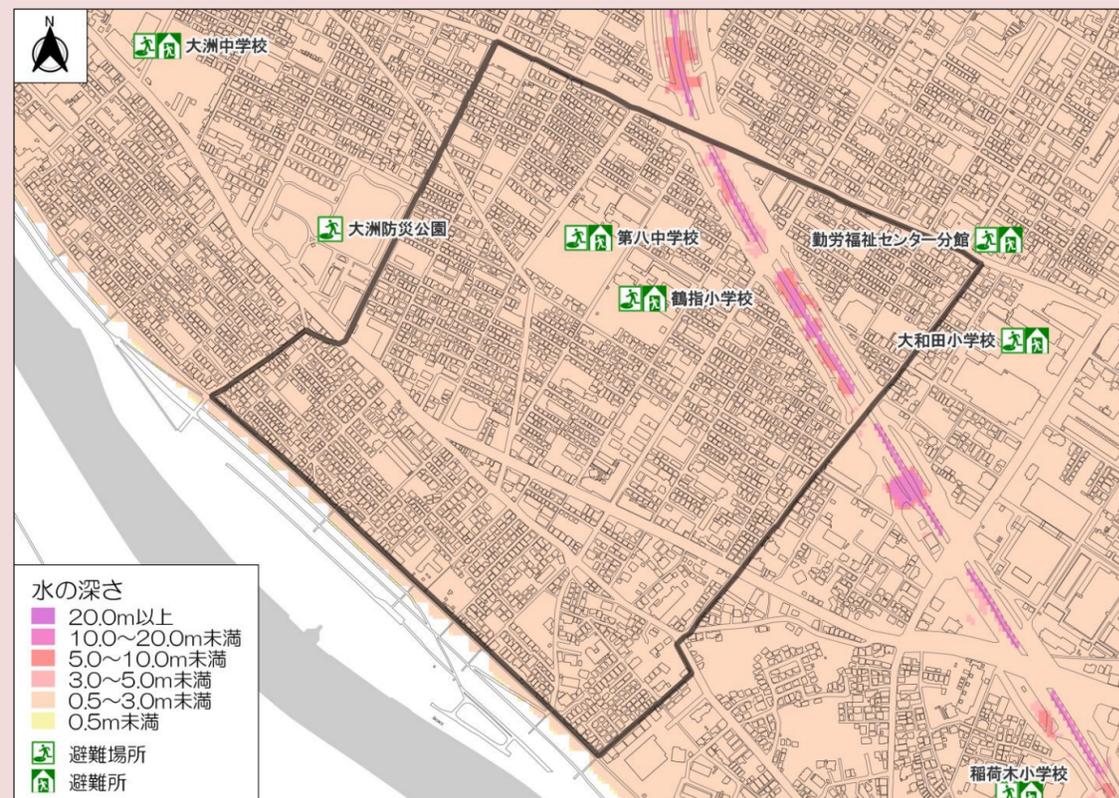
平成24年4月：千葉県

### ⑧洪水（江戸川）



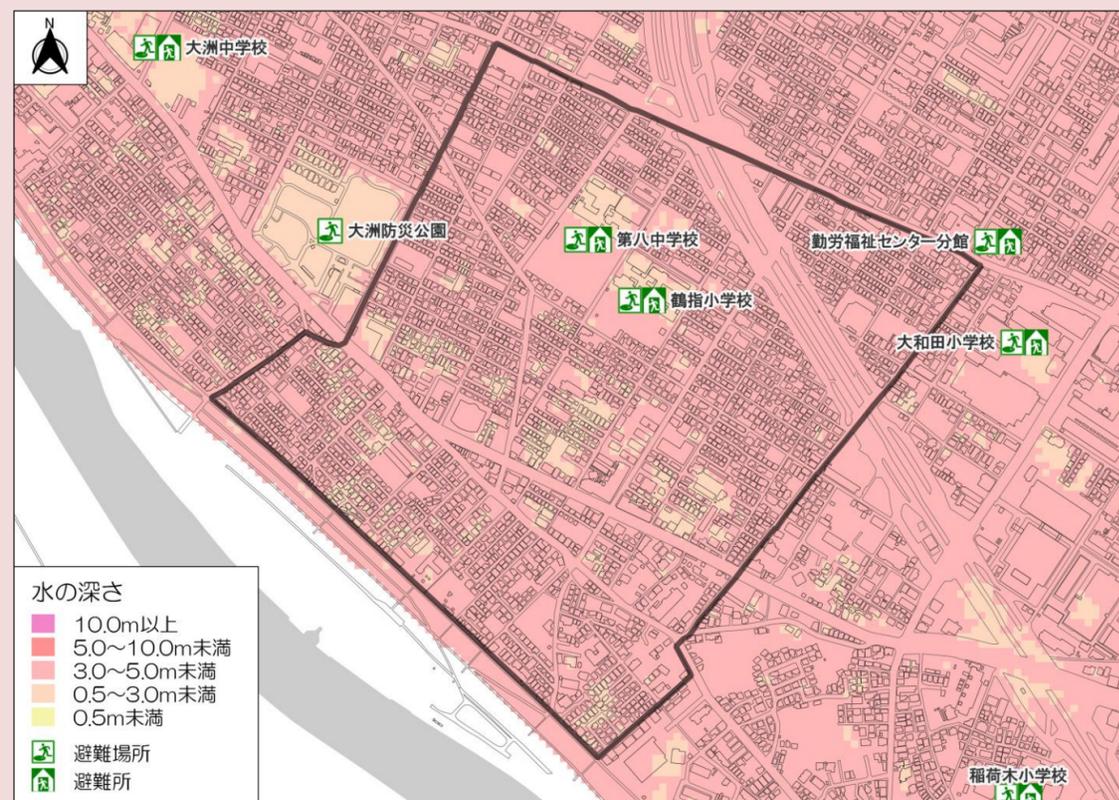
平成29年7月：国土交通省

### ⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

### ⑩高潮



平成30年11月：千葉県

### ◆メモ